

動物の診察室から

○ 34 ○

子供のころ、夏休みに父の実家に行った時のこととです。実家には猫がいとて、父は私に「この猫はね、おく振れ!」と言つと、しっぽを振るんだよ」と言いました。その言葉通り、父が「おく振れ!」と言つと、猫はしっぽをバタバタと振りましました。

エナちゃんは、「エナちゃん!」と呼ぶと、「にゃ〜!」と元気に返事をします。何回声を掛けても返事をします。でも、そのうち声を掛けても口を開けるだけで、声を出さなくなります。しつこく声を掛けていると、そいつと部屋を出て行きます。エナちゃんは、人さし指を鼻の先に持つていくと、必ず指先のおいをかぎます。何回やつてもおいをかぎます。でも、そのうちに頭を両手の間に入れて寝たふりをします。

ニャンコのしっぽ

言葉に返事 思い出今も

エナちゃんは、みかんの皮が大嫌いです。みかんの皮をちぎって近くへ投げると、飛び跳ねるように逃げてしまいます。エナちゃんは、私が寝ていると、胸の上を平気で歩き回ります。そして、布団の中に入りたいたいは、耳元でにや〜にや〜と鳴きます。とつても自分勝手です。このようなことは、猫ちゃんみんながするようです。父が声を掛けるとしっぽを振ったのは、猫の習性だったのですね。

さらに父は「この猫は、足ももんでくれるんだ」と言つて、ねころんで足を猫の前に持つていくと、猫は父のふくらはぎを両前足で交互にもみもみと押し始めました。私は、この猫はすごいんだな〜と感心したことを覚えています。

私が大学時代から23年間飼っていた猫の「エナちゃん」も、「おく振れ!」と言つと元気にしっぽをバタバタと振っていました。でもエナちゃん



病院のニャンコたち

エナちゃんは、生まれてすぐに人工哺乳で育ちましたので、おはあちゃんになつても、私の指の柔らかいところを吸いながら、前足で私の手をもみもみとしていました。そんなエナちゃんも、今はいません。お盆にベツト霊園に行きました。13日に訪れた人は3千人くらいだったそうです。ペットは死んでしまつても、飼い主さんの心の中にいつまでも生きています。病院には口匹の猫がいま。今は猫と遊ぶ時間はありますが、そのうち、日がな一日ニャンコのしっぽと遊んでみたいなど思つたお盆休みでした。

